

## そんなつもりでなくても

牟田山中学校 三年 フェル イザベル 英里香

皆さんは「差別」と聞いてどのようなことが頭に浮かびますか。人種差別、障がいのある方への差別、性差別などが浮かぶ人も多いと思いますが、今日は「マイクロアグレッション」という、見えづらい差別について私の考えを話したいと思います。

マイクロアグレッションとは、「マイクロ」は“小さい”、「アグレッション」は“他者への攻撃”を意味するように、多くは日常の中の些細な言動であり、「自覚なき差別」とも言われています。マイクロアグレッションは差別の一種ですが、発言した本人には悪意があるわけではなく、否定的な言動をしているという意識ありません。そのため、その言動を注意しても「そんなつもりはなかった」「それぐらいのこと」と理解されなかったり、逆に反発を招いたりすることも少なくありません。例えば、「新入社員なのがいいこと言うね」「女性でも頑張れば正当に評価されます」などとよく耳にすることがあります。これらはある意味、褒め言葉のように聞こえますが、その発言の裏には「新入社員は仕事ができない」「女性は頑張らなかつたら正当に評価されない」といったような無意識の思い込みが潜んでいます。

私もマイクロアグレッションと思われるものを受けたことがあります。私が、アメリカ人のお母さんをもつ友達と遊びに行ったとき、エレベーターと一緒に乗り合わせた方から「日本語上手だね」と言われました。それを言われたとき、とても嫌な気持ちになりました。私はずっと日本に住んでいて、日本の学校にも通っているのに、顔が純粋な日本人でなければきちんとした日本語が話せない、というふうに決めつけられた感じがして、とても嫌な気持ちになりました。そう考えているうちに、逆に自分でもマイクロアグレッションをしてしまったことがあるかもしれないと思いました。以前、友達に「背がちっちゃくてかわいいね」と言ったことがあります。そのとき、友達の顔がふと曇ったのに気がつきました。これは褒めたつもりでしたが、友達にとってはコンプレックスを指摘されたように感じられたのかもしれない。

私にはイギリス人の父親がいます。そこで、私が受けたマイクロアグレッションについて家族で話したところ、イギリスでは外見は自分の努力では変えられないので、人の外見についてあまり指摘しないように教育されるということを知りました。私もそのことを知ってから、人の見た目について軽く言葉にすることがないように、もっと気をつけようと思うようになりました。マイクロアグレッションは、その言葉を発している側は自分ではなかなか気づくことができません。気づけないことで「無意識・無自覚」に周囲を嫌な気持ちにさせてしまいます。だからまずは気づくことが重要だと思います。そして、気づけるようになるためには、ニュース・本・新聞などからいろいろな知識、情報を得て学ぶ姿勢が大事だと、私は思います。

また、「自分の言葉が相手にどう受け止められるか」を想像することも大切だと思います。そして、誰かが「傷ついた」と言ったときには「そんなつもりじゃなかった」と言い訳をするのではなく、「そうだったんだね」と自分の言動を見つめ直す姿勢をもつことが必要です。しかし、最も重要なのは、誰もが関係者になり得ることを理解し、自分のこととして考えることではないでしょうか。私はこれからさまざまな人とコミュニケーションをとっていく中で、言葉を大切に、相手の気持ちを考えてから言葉を発するようになりたいです。

この弁論大会を通して、まだまだ知られていないこの「見えない差別」を少しでも多くの人に知ってもらい、そこからまた広がっていけば、世の中がもっと優しい世界になっていくと信じています。

「そんなつもりでなくても」……私は常にそう意識しながら、人と関わり、生きていきたいです。